
バトルオブブレイズ～ラッシュュ達の旅～

フォック・リザハート

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

バトルオブブレイズ〜ラッシュ達の旅〜

【Nコード】

N3363Y

【作者名】

フォック・リザハート

【あらすじ】

とある3匹のリザードンがグラド地方というポケモンリーグが開催される地方へと訪れた、それを目指す一匹のリザードン、元ポケハン学園バトル部部长…ラッシュ、これはラッシュと仲間達のバトルと冒険の物語である。

プロローグバトル（前書き）

さあ始まりました！ラッシュ達バトル部の続編となる小説『バトル
オブブレイズ〜ラッシュ達の旅〜』

エピソードでの布石でついに続編を書くことになりました！！

記念すべきプロローグバトル！！行くぜ！！

プロローグバトル

ここはモンスターなどが住む世界、モンスワールド

それぞれのモンスターが人間と同じように生活している

そして…新たな物語のページが…今開かれようとしている

……

ここはグラド地方の港町、ランドルーラ

いつそうの船がこの港町に上陸した、そしてハッチから3匹のそれぞれ同じ姿だが色が違うモンスター…ポケモンと呼ばれるモンスターが出てきた

顔は竜みたいでたくましい両翼に太い両足に二本の短い角、そのうちオレンジ色の体色の竜と黒色の体色の竜の両腕は筋肉質でクリーム色の腹も腹筋が割れて逞しかった、だが違ってオレンジ色の竜だけは傷が多くあり、右翼膜には傷が目立っている。ピンク色の体色の竜は頭にリボンをつけていて首にはペンダントをつけている。3匹のポケモンの種族名はリザードンと呼ばれるポケモンだ

リザードン「ふう〜やっとなついたな」

黒リザードン「ついに来たんだなラッシュ…サクラ…」

ピンクリザードン「そうね、どんなところなんだろうねラッシュ、

クロア」

3匹はそれぞれそう言う、まずは3匹の紹介しよう

まずオレンジ色の体色の体中傷だらけのリザードンの名はラッシュという…彼はポケハン町出身のポケモンで元ポケハン学園バトル部の部長である。鍛錬した肉体で色んなライバル達とバトルし、そしてリザードンには使えない波動を使えることができ、相手の気持ちなどを理解でき、技である波動弾を使うことができるリザードンだ次に黒い体色のリザードンの名はクロアという、彼は元はバトル部のもものではなかった…だがラッシュと大会でバトルして以来彼はラッシュの父であるリュウオによって養子となった、今はラッシュとは兄弟みたいなものになっている。彼自体…ラッシュがいなかったら変われなかっただろう…

そしてピンク色の体色のリザードンの名はサクラという…彼女はバトル部の一員だった者でラッシュとクロアの旅に同行している。理由はラッシュとの…あれらしい、彼女も好きな彼と一緒にいたい気持ちとかもある。彼女は回復術などを使うため修行もかねて来ているラッシュ「さて、まずは情報を集めて最初のジムが何処にあるのか聞いてみるか」

サクラ「そうね…じゃあ3人で行きましょう…どうせ離れたら嫌だし」

サクラがそう言う

クロア「いいのかそれで？」

ラッシュユ「まあいいんじゃないか？どうせこの町の事俺達はわからないから」

そう、彼等の目的はこのグラド地方各地にあるジムをめぐる旅…そしてこの地方にあるポケモンリーグに挑戦するつもりだ

ラッシュユ「それじゃあ行こうぜ」

ラッシュユ達3人は船を降りて港から町の中へ入った

……

サクラ「ひつろ〜い！」

ラッシュユ「うへえ〜こりゃ迷うな（汗）」

3人は広い港町を見渡す、レンガの家が多くラッシュユ達も迷うほどだ、本当は空を飛んだ方がいいが生憎荷物があるため飛ぶことができない、そこに

「お前等？道に迷ったのか？」

一匹のポケモンが3人に近づく

両手が鋼鉄のドリルの形をしていて頭の先端部分はドリルの角、目つきは鋭く両頬に3本の赤い線がついていてモグラのような姿のポケモン、ちていポケモンのドリユウズだ

ラッシュユ「お前は？」

ドリユウズ「いきなりでわりい、自己紹介するぜ、俺はドリユウズのライナ、道に迷っているなら俺が案内しようか？」

ドリユウズ「ライナが案内とかしてやるうと言う」

ラッシュ「俺はいいがクロアやサクラはどうだ？」

ラッシュは二人に聞く

クロア「構わない」

サクラ「空飛んでだと荷物の重荷で飛べないそうだし…それならOKよ」

二人はOKのようだ

ラッシュ「そうだな…案内してくれるか？俺達ここに来たばかりなんだな」

ライナ「別地方のポケモンか…お安い御用さ、俺についてきてくれ」

ラッシュ達はライナに着いていった

……

ライナ「ついたぜ、ここがこの町のポケモンセンターだ」

ラッシュ達3人とライナはポケモンセンターについた、モンスターボールのマークがついている建物…これがポケモンセンターだ、こ

こは宿泊施設にレストラン…さらには病院やフレンドリーショップと連携しているので買い物や治療までできるので、ラッシュュ達は中に入った

ラッシュュ「すごいな」

中に入ると天井などは広く開放感あふれていた

クロア「俺達の地方はポケモンセンターにフレンドリーショップはなかったな」

サクラ「そうね、あたし達の地方はポケモンセンターとフレンドリーショップは別々だったしね」

ラッシュュ達の住んでいる地方…ポケハン地方とは違うことにラッシュュ達は驚く

ライナ「へえ〜お前等の地方とは違うんだな…なあ俺もその話聞かせてくれないか？」

ライナは聞きたいとばかりに気になっている

ラッシュュ「そうだな…ちょうど腹減ったから飯でも食いながら話しか」

そう言くとラッシュュ達はレストランへと向かった

…

ライナ「うめえ〜」

ライナはかなりの量を食べっていた

ラッシュユ「すごい量食うな(汗)」

クロア「どこかのバカ竜と似てるかもな…」

ラッシュユ達は啞然としている。

ライナ「すみません！おかわり！」

ラッシュユ「まだ食うのかよ!?!」

ラッシュユはツツコミをいれた

それから数分後

ライナ「はあゝ食べた食べた」

ライナは満足そうに突き出たお腹をさすった

ラッシュユ「よく食うなお前(汗)」

ライナ「ああ、まあ成長期ってやつかな」

とそんな事を言う…年齢がわかっていないのに

サクラ「成長期ってあんたいくつよ?」

サクラはライナに年齢を聞く

ライナ「俺は今15だぜ」

クロア「15！？俺等より3つ違いじゃねえか！？」

この姿で15歳というのに驚きだ

ラッシュ「これで15か…まあ成長期というか逆に大食いに思えるけどな(汗)」

ラッシュのいうとおり、成長期どころか大食いに見える感じだ

ライナ「まあ細かいことは気にするな」

笑顔でライナは言う

ライナ「それよりお前等の地方の話聞かせてくれよ」

ラッシュ「わかった」

ラッシュ達はライナの自分達の地方の事を話した

……

ライナ「へえ、あっちには別のモンスターとポケモンとかが共存していてさらに学校なんてあるんだ。俺んところには学校とかなかったけどな」

どうやらライナがいるグラド地方には学校という存在はないようだ

ライナ「こっちは旅に出るのは15歳ぐらいからなんだ…俺は旅に出たばかりでこの町からスタートしたんだ…まあこの町に来たことあるから大体はわかるけどな」

ライナはこの町に来たことあるため町の事はわかるようだ

ラッシュ「ところでライナは何処の町出身なんだ？」

ラッシュはライナの生まれ故郷の事を聞く

ライナ「俺の町はグルドラというところなんだ…俺は船に乗ってきたんだ、まあ親父とおふくるところに来たことあるからわかるけどな」

自身満々にライナは言う

ラッシュ「そうか、さて！俺達はこれから最初のジムに行くつもりなんだ」

ライナ「へえ〜ラッシュもポケモンリーグに出るんだ」

「ああ！」とラッシュは答える

ライナ「それならまず俺とバトルしてくれないか？」

ライナはラッシュにバトルを申し込む

ラッシュ「それは構わないが本気で行くが構わないか？」

ライナ「もちろん！バトルはそうでないとな」

ニカツとライナは笑顔になる

クロア「バトルフィールドに移動するか、外にバトルフィールドがあるからな」

ライナ「そんじゃ行こうぜ」

ライナははしやぎだす、まるでまだ子供のような感じだ

ラッシュ「そんな慌てるなよ、行くからな」

ラッシュ達はポケモンセンターの外にあるバトルフィールドへ

……

バトルフィールドはシンプルな地面のあるフィールドだ、中心にはモンスターボールのマークが描かれている。

クロア「これより、ラッシュ対ライナによるポケモンバトルを始める、どちらかが戦闘不能になった時点で試合終了となる。二人共…OKか？」

ラッシュ「ああ、こっちはOKだ」

ライナ「俺もOKだ！」

ライナはワクワクしていた。これほどまでバトルしたいのかがわかる

ラッシュ「それじゃあお手並み拝見といこうか…」

ラッシュはファイテングポーズをして構える

ライナ「元バトル部部長の実力がどんなのか見せてもらおうぜ！

ライナも両腕で構える

クロア「それじゃあ！バトル…開始！！」

ついにラッシュのグランド地方、最初のバトルが始まる！！

プロローグバトル（後書き）

ついにプロローグバトルを書けた！

ラッシュ（リザードン）「よっ！みんな久しぶりだな！ラッシュ」と本名郷田ラッシュだ！」

クロア（黒リザードン）「色々心配かけてすまないな…クロアこと郷田クロアだ」

サクラ（ピンクリザードン）「みんな久しぶりね！サクラこと近衛サクラよ」

3色トリプルリザードンがそろうなんてね！

ラッシュ「作者がそうしたからだろ（汗）」

クロア「まあ俺をなんとかしてくれたのはこの作者だけだな」

サクラ「まあ作者もバカだけど感謝はしているわ」

なんかバカ発言多くね（汗）

ライナ「って！俺の紹介もしてくれよ！」

お前はまだだめ、もう少ししてからだ

ライナ「え〜」

え〜じゃねえよったく…というわけで次回はグランド地方最初のバトルとなります

ラッシュ「俺達もがんばるからな！またよろしくなあ！！」

バトル1 グラド地方最初のバトル(前書き)

ついにバトルです

ラッシュ「油断できないな」

まあどうなるかお楽しみに、それでは記念すべきバトル1

ラッシュ「行くぜー!!」

バトル1 グラド地方最初のバトル

ライナ「ドリルライナー！」

ライナは姿をまるでドリルのように身を丸めて突進してきた体が宙に浮き、抵抗力をうむ

ラッシュ「（ここは避けるか）」

ラッシュは防げないと判断し、避けた

ラッシュ「火炎放射！」

ラッシュは避けた後から火炎放射を放つ

ライナ「守る！」

ライナは緑の膜を作り防いだ

ライナ「いわなだれ！」

無数の岩が上空に現れ、ラッシュに向かって降り注ぐ、炎・飛行タイプであるラッシュにはダメージ4倍を食らってしまうだろう…だがラッシュもそのぐらいではびびるポケモンではない

ラッシュ「はあああああ！！」

ラッシュは気を溜める

ラッシュユ「波動！連拳！！」

青いオーラがラッシュユの拳を纏う、そこから連続でパンチが繰り出された、岩は木っ端微塵に碎け散った

ライナ「す、すげえ〜（汗）」

ライナはいわなだれが碎かれたことに啞然とする。いやそれ以前にラッシュユが強いというのを感じた

ライナ「すげえ〜すげえ〜よラッシュユ！」

ラッシュユ「ありがとな、ほらよそみすんな！」

ラッシュユはライナの懐に入る

ライナ「なっ！？」

ラッシュユ「行くぜ！燃えろ！気合の拳！」

ラッシュユの拳が炎を纏いライナを殴りつける

ライナ「ぐわっ！？」

ライナは吹っ飛ばされる、だがラッシュユはそこから

ラッシュユ「竜の心を極め…限界を超える！」

青い球体と紫の球体の二つがライナに当たる、ラッシュユは素早くラ

イナの懐に入る

ラッシュユ「龍炎りゅうえん！波動撃はどうげき！！！」

ラッシュユの最大の炎と波動を込めたパンチがライナに直撃した

ライナ「ぐわあああああああああああああつ！！！！！！」

ライナは地面に叩きつけられ目を回してしまった

クロア「ライナ戦闘不能！」

ラッシュユ「しまった！やりすぎだか（汗）」

ラッシュユはやりすぎたと反省し、倒れてるライナの元へ

ラッシュユ「おい！大丈夫か？」

ライナの状態の確認をするラッシュユ、だがライナは

ライナ「いてえ〜やっぱつええ〜なあ〜」

ライナはなんとか立ち上がる、鋼タイプのためかダメージを受けたような感じはしない…しかし

ライナ「腹がいてえ〜（泣）」

ライナは自分のお腹をさする

ラッシュユ「わりい（汗）大丈夫か？」

ラッシュユはライナに声をかける

ライナ「あ、ああ心配すんなよ、俺は平気だぜ」

平然とした笑顔で平気なのをアピールした

サクラ「でもライナも強いわね」

クロア「だがまだまだな部分もあるようだな」

こうしてバトルはラッシュユの勝利でおさまった

……

ラッシュユ「さて、ジムがある町へと向かうか」

クロア「ここからだとファイトシティが一番近いな」

ラッシュユ達は最初のジムがあるファイトシティに目的地を決めた

ラッシュユ「それじゃあ早速行くか」

ライナ「あつ！俺も一緒に行く！」

突然ライナが荷物をもって行きたいと言う

ラッシュユ「いいのか？」

ラッシュはライナに聞く、ライナ本人は

ライナ「ああ！ラッシュみたいな奴もいるみたいだし、それに一緒にいたらなんかいいな」と思ってね…俺まだまだ経験不足だろうか
らラッシュとかに稽古つけないからなあいいよな？」

ライナは甘えるようにラッシュ達に視線を向ける、するとラッシュは観念した表情で

ラッシュ「わかった、よろしくなライナ」

ライナ「よろしく！！それじゃあまずはファイトシティへ出発進行
！！！」

こうして新たな仲間ライナをむかえラッシュ達の旅は始まった…この先どのような事が起るのだろうか…そしてジムバッジを全部集めることができるのか！

バトル1 グラド地方最初のバトル(後書き)

まあ今回はあっさりな部分になってしまいましたすみません

ライナ「でも強かったな〜俺も強くないと」

ラッシュ「まあみっちり鍛えてやっからよ」 ライナの背中を叩く

ライナ「ぐほっ！軽くやってくれよ!」

ラッシュ「わりい(汗)」

次回はライナの特訓です。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3363y/>

バトルオブブレイズ～ラッシュ達の旅～

2011年11月9日01時07分発行